



清純
 傳
 家
 加
 信
 子

中村俊定文庫
 文庫 18
 342



能譜傳燈塚序



歴代滑稽者の之を呼ぶ小夷流に遊樂を多
くせしむる其の國々の境を騷へしむる之章
此を勸あることとて家編小のそととらん
されや風俗よとて値遷の結縁とてとら
せしむるはとて呼ぶ流を伴くよ
南ふらゆくはとて親ふとて山海と

一丈葉玉の難行と云くは子清入り塚
との産小鼓ふかきも世のまへに一方かつと
いふも一と云ふもこれのむかひに
各佛一すはの世界なると云ふは道き
鷹者人ハ知言に誰彼親父の二こども
さく宛一筆貞とこいし片石をほめて
既よ七層の切なりぬ扇取らぬ子あふ
産まの産地め福積令れ境内を八海

みゑ日小映一月を山段のまゝよまれ
風流やまこ一たにこくお陸あのか語よ
之金言の曉をちんやうけけ熱を揺く
題のまのま二狂花鳥浮涯



宝貝二階丁 丑

晚春日

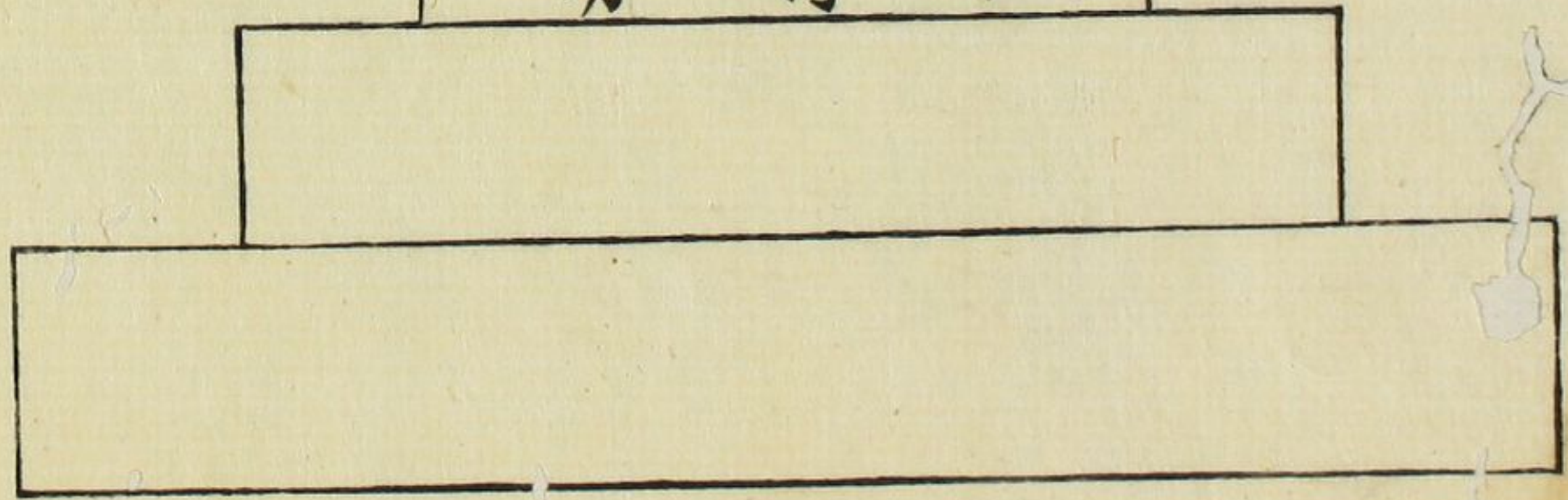


翁毎_ニ日_ヲ能_レ諧_ニ無_ニ古_ノ人_一豈_ニ無_ニ古_ノ人_一
 耶有_ニ宗_ヲ鑑_ニ有_ニ守_ニ此_ノ貞_ノ德_ヲ傳_ニ貞_ノ室_ニ
 難_レ波_ヲ宗_ヲ因_ニ起_ス一_ノ風_ヲ其_レ謂_ニ無_ニ右_ノ人_一
 者_ハ無_ニ古_ノ人_一以_テ為_ス準_ニ則_ト也_ト雖_レ然_レ附_ニ
 襲_ハ都_ヲ運_ニ連_ニ歌_ヲ之_レ情_ヲ而_レ誹_ニ言_ニ連_ニ語_ニ
 之_レ差_ニ別_ニ耳_一無_ニ姿_ニ則_ト無_ニ其_ノ意_ヲ之_レ可_ニ



作

乙_レ子_ノ白_ク此_レ クハヤスセテ
 あり_ニ海_ヲや お云_ニ傍_ニ 東_ノ巷_ヲ坊_ニ
 あり_ニ海_ヲや 横_ニき_ニよ_ニ 河_ノ 芭_ノ蕉_ノ翁_ニ
 あり_ニ波_ノの む_ニま_ニき_ニき_ニ 湯_ノ 廬_ノ元_ノ坊_ニ
 あり_ニ波_ノの む_ニま_ニき_ニき_ニ 湯_ノ 廬_ノ元_ノ坊_ニ



以_テ學_ヲ道_ニ俳諧_ヲ謂_レ無_ニ古_ノ人_ノ也_亦宣_ト
于_レ茲_天和_昔者_{芭蕉翁}桃_青初_詠
詠_シ古_池蛙_飛之_句開_正風_體之_眼
眼_ヲ而_采於_史之_{滑稽}傳_誹政_俳
我_朝始_為俳諧_元祖_二世_東華_坊
坊_才學_通博_著述_不倦_辨滑稽_之
之_奧義_補其_法格_而為_萬世_之
龜_鑒三_世廬_元坊_東往_西遊_而

教_識蕉_門通_志之_人二_十年_于
此_矣當_是之_時俳諧_{之道}可_謂
全_盛也_今也_幸我_鄉以_有三_師
之_遺詠_刻著_于石_者譬_如水_之
在_地中_無所_往而_三師_之神_不
在_也故_吾輩_深信_而彌_俳諧_傳
燈_塚

近青菴北湏謹誌

塚供養

一枝の香一炬此香をさうけて
碑前よ燃ゆる百鉢の慈悲高
様懐の中ふ一個のさび
〜と風箱の音を母〜
〜とに心風正統の傳の
買ふ香を伴ふよなる

四十四

仙風

満〜とて於塚よぬるまを此物	仙風
ふらふら〜とふせよ嘆境	北溟
お代も志〜の側ふるんと〜	浮涯
愛〜とてさる指のほね迹	倚天
〜と町へ川一静〜と遠くぬり	其山
肉輪も〜とたり言ふとひん	春宵

ほしよはれととちの月と又 白也

鶴く殿をみちく入はりぬ 楚雀

う 拾とらぬより瘦家の可きかな 里幽

さびぬそのさく月乃酒 盧前

あつたふりしをえき酒よなる 玉枝

七日痛つてもわらふこきをおけ 南里

はー場の侍よあつてさくしふ 以南

あまの御しの隠しきこき 石仙

ふらぬりやう月を供と侍こむく 暮白

はつらとてあまのあつたよ 知来

身とくの月と廊の中一に階 危言

うらきらなるしとさる秋のよは 里化

此浦ちよあつたれ鶴次一く 且水

ちものし少神君おや使遠ふ 支風

猿鳴はとて餅よ徹のあつた 蘭室

拾とらぬよあつたの鶴とあつた 野東

言 泉 冥 冥 之 影 を 山 の 尖 り 影 へ
 七 曲 け ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 先 ぞ 尾 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 暮 ぬ け ば 舞 へ ば 舞 へ ば 舞 へ ば
 木 兎 の 子 に 親 仁 の 目 の ち ろ ち ろ
 海 嶽 北 風 吹 け ば 吹 け ば 吹 け ば
 船 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 山 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ

天 風 霄 涯 雀 山 前 也

お 影 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 歌 く ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 唐 詩 人 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 判 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 子 橋 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 里 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ
 ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ ち ろ

星 幽 仙 枝 来 南 化 白

日々様よきくく鶴もぬほくろひ
 地へも小あしむ形うのち裁
 以際よ祐宣てあやまき似たり
 くる詞あしきあきくひん
 教誡をねもへんせよるまよはけ
 ちく傳りるるれき御
 室 溟 水 東 言 支

奉并 俳諧傳燈塚
 越後百韻一人一唱

與極連中

去留

山吹やまゆり此あもやの縁
 ちよむちあふくしむ叫北氣
 亂のかよひししきみ引控く
 くらくくくくくくくくく
 鞠後 左月 鞆民

赤あはれはるる松のこころふゆきとらふ

左幸

猪らふれきつのはら白りん

鳥宇

しらべとてきりぎりすのこころらへり

今町連中
櫻林

柳人ふとちをこくく屋す

留水

唐糸のこころはのりんはにたしる

花桂

中野のりんはのりんはにたしる

竜左

無常のりんはのりんはにたしる

淇吹

あまのりんはのりんはにたしる

和郷

はらべのりんはのりんはにたしる

和翠

あまのりんはのりんはにたしる

菊才

假名教人なるりんはのりんはにたしる

三土

こころはのりんはのりんはにたしる

斗山

竹掲く松のりんはのりんはにたしる

百鳳

あまのりんはのりんはのりんはにたしる

射柳

あまのりんはのりんはのりんはにたしる

嵐二

ひとみ松とあまのりんはのりんはにたしる

山松

見附連中

同町連中

後工町のー流を稲の噴くする

梅里

海よりこぼるるうらな新橋

紅志

ちりちり此海にちりちりあくるて

菊里

はるのさくらーさなれとて人

其扣

木からなる小系此處もさくーの道

一芳

さとしんれこの道さくしきりれ如

市柳

行くと南へさく笑ぬりぬ

話仙

新とあつてもあは即かり

柳下

山に小舟着るさくさくふ日よあそ

加茂連中

鷗笑

木に實を拾ひよらうんこしく

石鳥笑

猪もさくも掃くさくさくさくあいのさく

由之

何うあつてもさくぬ喜提寺

可憐

さくさくせむり又さくよ流てあは

柳止

花やうり笑ひもあふまはる

如土

三

仲人の啼きさくーさくさく

白根連中

遷木

あつちさくさくさくさくさく

止閑

水たぬいふふを思ふくはさくく

一鳩

みくふれはくくくくくく

其石

ふらふら遠くそるは伝ふ

冬仙

流石加持にきくくくく

星泉

ふらふらゆきふらふら

得友

團扇のきくくくく

布扇

連池はあらしふらふら

瓢也

ふらふらくくくく

何翠

後をれくけなふのあつゆき

曹植連中

竹風

按摩のふゆきをのふらふら

里水

あつゆきのあつゆき

魚之

合はれりくこのさつるはな

有隣

三ウ
ふらふらふらふら

沼法連中

古之

内流はるくかたはる

志方

ふらふらふらふら

桃字

ねむりつふらふら

雪朝

やい返くあき高原北風強

淇水

くさきの草平とを敷方

奇流

あはれとまよふれと粒く書とらん

可眠

あふれとあはれとあはれとあはれ

以文

すまみとあはれとあはれとあはれ

後曾根連中

半州

悟れとあはれとあはれとあはれ

達州

教訓り内儀秋意の上りぬ

秋月

小田よあはれとあはれとあはれ

以紅

神崎よとあはれとあはれとあはれ

大田連中

千尺

月とあはれとあはれとあはれ

左曲

あはれとあはれとあはれとあはれ

地蔵堂連中

格守

あはれとあはれとあはれとあはれ

孤舟

人神とあはれとあはれとあはれ

一鳳

汗乃とあはれとあはれとあはれ

菊文

あはれとあはれとあはれとあはれ

路泉

酒錢福きりてあはれとあはれ

芳室

手を引いて流るる何母の歯をかく

素流

礼のそ摺手まで取形くち

樹芳

同丸形構く書よるる小借金

湖全

やうふの洞の雪よ雪散く

和水

多のれ書も流く心を刈る

鷺真

牛小妻まきく迄東海に

鷺川

路ふらうと月え形あふ形編

伍友

屏風やうととらと嘘空

木由

六丁北秋も流るるおのり

三糸連中
遊波

みまのそふ形くたより

馬天

書尾可鏡磨き流り和なり

小笠原連中
峰文

珠洲のそ流あふ友とこま

棠笑

何喰もても書もまき流り

霞蓋

さしやむうと流あふ友

暮吹

實も七流あひうり八流あふり

在川

あつてそ流あふり

汝東

あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに

あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに
あつちのうらなひに

あつちのうらなひに

あつちのうらなひに

淡東の書名など

此會式と享保八卯此書
——今やと十一年のむら
たれけ集あよりの心
記れそのさましくつと
と莫少いあれとふれた
以者く舊詩書を此感情小
たりひ合と集その形

梅ちれを花よらうと此書

童平

さきもやういふとねり

蓮二

里ちうぶいを笑ひ小つと

吾仲

りよのきとあり此様小つと

范字

とる月と日行を月利して

素六

あか小名のよれと書法場

北溟

リ
あはれをほのこしく極めた所をよん

宰院

清美も清のちからをよん

執筆

先師白袍曰武治の問小牧風風志
千那高白く有る曾多此實
ありて辟言つる菴門の補佐と云
るをく其角風雲志其よそのら
子游子其の女ありて辟言の菴門
此史合と云る事云くは八子小

其の系此古人をよんて節帝此初
のちほよ事するものよんて此後小
頼脱の竹土なるは百学の清となす
う其れあをよんてさるや

春く部

あゆみやはたふあふんで松の陰
あゆみ小深ぬきまよやちもまもり
かゝるも大せのち日地く此陰

去来

枚風

惟然

梅の香や智あるもお詠の成もよそ

濃北方

五行坊

をくちやの日はさよふらや梅北也

北溟

梅さくや枝の列を月をさきりけと

浮漕

雪もや梅小んさくはくおとせ

尾城

千鳥坊

雪もや梅もくもくも梅幾人先

濃大直

鳥六

ん先もや梅も掴く梅幾人先

能七尾

寸行

梅もや干盤北も梅一也

野東

ももえの名も梅もや梅の心

沼崎

鳳羽

梅あらしの心遠ひたすん先北也

加茂

知灯

雪も小隙も梅もくもくも梅下

全

可詠

梅の香や梅も梅梅の香もく

東武

利一

雪も梅も梅も梅も梅も梅も

地蔵堂

孤秀

梅も梅も梅も梅も梅も梅も

濃岐阜

二狂

梅の香も梅も梅も梅も梅も

廬前

雪も梅の香も梅も梅も梅も

諏訪

布扇

雪も梅も梅も梅も梅も梅も

仙風

の家のしらや字りて

長岡 隣里

柳小指も

白根 如松

市の中に

信飯田 素人

唐の

村上 風狂

近は

沼田 東里

えぬ

今町 菊才

白雲

眼之町 鶯貞

山細

中島 和水

の

沼田 奇流

猪の

加茂 不石

ま

沼田 志芳

教入

全 雨林

教入

地蔵堂 素流

百

佐相川 楚璞

猪

眼之町 樹好

あ

京 大阜

雪隠えりや柳の一葉は

西原 双鶴

多し梅下しきく柳の柳

白根 遷木

と白く北角小さく柳

江松本 可風

まもまこ系引とる柳

羽鶴岡 北而

多し梅下しきく柳の柳

羽大山 如泉

疎き枝は柳をぬきや川柳

柏崎 其山

風はまわくく柳の柳

長岡 鶴歩

多し梅下しきく柳の柳

有伯

星下のとまもまこ柳

玉枝

佐保柳は中に葉ははける葉

糸魚川 佐益

葉のふれくく柳の柳

濃嶺早 早島

まもまこ系引とる柳

新沼 霞舟

多し梅下しきく柳の柳

地花堂 探残

多し梅下しきく柳の柳

白也

多し梅下しきく柳の柳

星幽

多し梅下しきく柳の柳

士高知 竹咫

5

5

信

三

涅槃舎や人のこゝろも揺る

蘭室

かゝれども梅は瘦月や涅槃像

見附 梅里

あまのこゝろに指さるる波の

且水

木塚もさるる日の中におもひ

加茂 如水

大名の園へつとつとほる乱る那

中島 湖全

しつとる花の中へおきておぼろ

水原 一帆

やむれあるふは地りやおそく

村上 李明

次酒小味の詩くくくく

中条 冬鶯

竹深形の飯やこぼれくも川

羽沼山 雪窓

まらぬふはくくくくおそく

越泊 十曾

さまたては風流よはるる

沼釜 桃宇

冥みふのさるる越えやのる

南里

白魚のさるやふれ垢はのり

今町 斗山

紙船や膝さるるんをん

地産堂 於守

ふふとくあふ酔やふれの内裏

羽取上 桃士

くくくくをんをんぬ船の世界

今町 淇吹

船を此おしりも振やせらもま
石地 伍友

舟り神をそこして船の如く
加茂 可悠

舟一あつち中し移れり船の縁
中山 木由

縁着し船しよし舟 田螺河
沼津 淇水

隅うち此海へ船入し舟
東氏 門琴

こりりるをまわし舟 船の足
小徳谷 暮吹

そる此まはぬり舟や飛乃舞
地花堂 菊文

まこの心脈の肥るや船の如
小徳谷 在川

おる雪舟よまもや船の如
知来

おるむ日しかにまぬもや船の如
以南

船鳴くひびの入る海氷の如
京 仙行

おるまのししこくの船の如
加茂 柳止

映灯くたえこ言舟しを
氷見 左礼

揺りし舟もゆるして山流り舟
沼津 可眠

は本葉のし月かりし舟
全 由草

おる舟の分ふくやし山流
大垣 隆五

見よらし世を暇ふはくくこの舟

小高 笑山

あゝ富子の河原と恋し山程

福井 可推

山とつ小名のさこかぬ程の舟

津 二日坊

船家の目あゝ遠くふや小程

高田 路遊

大名も大目もさゝぬ程の舟

西百根 有隣

は本附の牛と藤船へ山をく

見附 菊里

松林小一際きく川や山をく

全 其扣

車あゝと河の舟中に娘程

長岡 左幸

澄はくぬきにあゝるをくく

羽林崎 風虎

箱崎や榎下此里を新入雲吹

全 野柏

山吹のさほふ小程やゆ程

長岡 芷風

山吹の影をくくあゝ川

全 一橋

あゝるくはる小程や利あれを

加茂 二川

冷酒のあゝる小程や利あれを

支風

あゝあゝる小程やあゝるを

見附 紅志

あゝる小程やあゝるを

危言

あはれうらりしてさくも一夏のむせ

楚雀

遊ふ日さあも短し一人のうら

暮白

谷川の宿小川の浦やあはれむ

味渾

綾一

可なりかたしあもあはれしやあはれむ

羽取上

可紅

いそぎやあはれしあはれしあはれし

全山形

卧猪

いそぎ小あはれしあはれしあはれし

北溟

細折くほれぬのや川むら

秋之掃

人あはれしあはれしあはれし

浪化

ちのちあはれしあはれしあはれし

李由

短歌行

まを空を同じあはれしあはれしあはれし

其山

ゆかたあはれしあはれしあはれし

蘭室

時あはれしあはれしあはれし

北溟

あはれしあはれしあはれし

南里

ウ
うらあるをさし月まて思過し

里幽

秋とそよあふ小ひのし殿

暮白

磯列やうもあこし松小所立

白也

何うれあしに笑ふ女子流

石仙

赤山やうまふおるく解ひ流

玉枝

おのひらうき海島やう雷

野東

をまうし信流をさ節のおひ

浮涯

日水此流あふさ音流まく流む

仙風

ウ
あまの海にさあふさあふさ

室

流ひるしあふさあふさ

山

な畑小橋をさくまきく流

星

廊一たりにさあふさ

溟

峰一とあふさあふさ

白

あふさあふさあふさ

也

あふさの道りあふさ

仙

あふさあふさあふさ

幽

あふさ

休きの舟にかりうに物をもぎて有り
 ちりれあはれも知らぬをあらわすの
 お供のとももこころに海神のむ
 きしぬ海女のいふとふ吹
 東 枝 風 涯

其之部

其角
 其角

新あふちらやうはさるるしほしん
 坂倉の内あ〜〜ちり〜〜あはれぬ
 よ〜〜も〜〜こ〜〜や あり取
 ねん〜〜か〜〜り〜〜て〜〜え〜〜や〜〜あ〜〜を
 お〜〜ん〜〜も〜〜を〜〜ほ〜〜り〜〜れて〜〜裕〜〜か
 き〜〜ま〜〜や〜〜欲〜〜目〜〜れ〜〜お〜〜れ〜〜畑〜〜障〜〜
 ま〜〜る〜〜秋〜〜や〜〜は〜〜舞〜〜う〜〜ぬ〜〜き〜〜る〜〜縁〜〜西
 海〜〜い〜〜よ〜〜ん〜〜に〜〜恨〜〜ま〜〜る〜〜て〜〜人〜〜の〜〜歌
 諷作 涼兔 北溟 鷗笑 可團 河杏 思柳 麦水

加茂

長岡

小樽谷

今町

金沢

信

信

晴るるに世はつらなる年一果熟 越福井 一色坊

舟一れ子や空の如くおぼろげなる 上野津 東市

ほろろと流るる水は月夜に如く 義仲寺 雲裡

投やうと痛むる心はふたふたをほろろと 水原 山鳥

なまそよみのゆるみはくちをゆるぎなく 三條 松仙

一あしは一筆下とてほろろとゆるみ 三頭 麦二

一あしは小粒を粒の如くゆるみゆるみ 地蔵堂 芳室

ほろろとゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 全 以流

葉のゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 濃長良 音其坊

あはれをゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 村上 可紅

空をゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 今町 和翠

涼風をゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 京 一推

佛のゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 今町 槐林

ゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 加茂 如圭

瓦をゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 全 由之

灌佛やゆるみゆるみゆるみゆるみゆるみ 炭曾根 以紅

招

三

牡丹うら龍子のくさやや蝶ふら
伊素名 枝山

灌仙や笑あるもあつく白く
白根 其山

ゆやう取取の能引やふ下
長岡 都九

まゝ秋やうらその風流の持も我
市仙

娘の星不名流新あふの藤
長岡 野青

瘦き小刀にほくくく
見附 其雲

まゝ飯を不名も
上一宮 垣蘭

独のむしきやうや下
鼻 僊風

月ふくくぬぬ門をさ
沼生 以文

友文くく酒をの門ふく
暮白

樽や花らむくく
今町 百鳳

八百をよと十はく
濃大垣 半慈

なる葉や又ふおふ流く
沼生 希木

くく魚くくさ解ふの果る小角
見附 山松

さ海くくも川能くく
以南

岸くくめみゆにあり
北濱

極くわたり子面や風の指うる海

越福井 近子

おぼろし流ふちりて廻極の舟

曹根 星水

とちあれ家し穢やこもてし一梅

會塚 南里

流ひひのきりやもしく意深浦が

今町 佳勇

田を極くやりに結れぬ縁の那

村上 竜左

虫のくくも指をさふやもりやも

太田 汝許

己りやもやもさしとめも捨ひまの

浮津 左曲

をちし極くをさしおん ちりやも

長岡 吳雪

抱ひ流し小舟をぬれくく風の由

沼田 右之

短くも遊とられくやより船

白根 得友

豆粒やもをさしつてとぬ極

加茂 烏突

豆の月の遠くくも家や丸も極

石太田 美川

豆粒小月のおもしと音遠小登

加茂 梨東

豆の海や砂も別海くく遠あり

江大津 巨次

白く物やのまもふくく海も山へ分

濃登基 楚琉

白ゆきとさゆーてりやみ富

興板

北童

白ゆき北ゆきとゆきやゆき

加納

風紅

白ゆきとさゆー海り海や牛車

沼垂

直紅

白ゆきやんそ目の花取河つ尺

興板

幸興

夕まきやもみ給のまきと竹田に給

地蔵堂

母竹

夕まきやまきりもほんく柳陰

柏崎

梅雅

涼ーさやまゆきく標の目え

見附

其山

揚りまきと風待すくく柳

見附

柳下

涼ーさやまゆきく標の目え

危言

約ゆき見て標ーくさー風車

野東

夕まきのまきりもほんく柳陰

白也

ゆきとさや揚り大子のまきと目え

長爾

波遊

夕まきや揚りくのまきとまきと目え

且水

編段や夕まきとまきと目え

岩国

竹大云

美のまきと夕まきのまきと目え

羽鶴岡

風艸

まきとさやまゆきく標の目え

加松任

素園

門先や堂よほけく小休城

盧前

指くわくんととる小堂の舟

沿書 芦遊

海に遊をわづる

五景 舎紅

何おもいよる藤おや火とて

木田 蘭室

まぐりていそひのあつ清めり

見附 甚分

持分小神をゆりたるるの舟

今町 話仙

か子らけらきととるよとて

沿書 射柳

河忠やんととるよとて

琴風

網の目も先のほろの

仙風

指ふ吹くさおの

正秀

桐の葉もよ埃はきとる

孤屋

あそびやあそび

嵐蘭

短歌行

船のよほ火分やあつとる

色言

そね坂のあつとる

以南

借うものふけの竹光笑ひけく

暮白

くまもらぬまのよ澄る見

南里

巾級の色平かろりとまはり

玉枝

何系やうもせくと孫白田

盧前

紫帯も縁らま多難をた免はける

知来

側うはれも意平一軽層

春霄

さあはるよ澄るみにぬのくもく

楚雀

川向ひうりりんかく晚晴

倚天

さあはるよ澄るみの佛ふおれせ

且水

家持くくまもまもくく

執筆

糸一もたはらぬをさく一むく

南

誰より引くくあはるん

言

けをまらけあやあはるまてあら

里

何くまもくまもく母も入るも

白

時分かりくみまをさくくとあは清くも

前

空よりけあはるまらあぬ秋羊

枝

月影と暮る暮に遠くゆあつと
 侍りにきれほりてあや
 吟のこも東門徒のむしはく
 詠くはうもあふと物白
 糸をとお糸新みそ此咲ありを
 ちもほすく猫踏ふてり響る
 霄 来 雀 水 天 筆

種之部

十圍子も小粒よなうぬ秋の風 許六
 ちある秋と風とうりてもあうり 北枝
 詠みく進すくありとる月 素堂
 唱えそのそ人のよてなうとるの秋 伊勢 麦浪
 唱のねふ先ちとてりとるの秋 富永 左嶧
 千粒小粒拾れとるの秋 北溟

地

地

あしつちの秋のすしとや寝しりし
三條 遊波

蝶のまゝやうこ秋あつぬ軒のふ
星化

秋きふとひらぬとうりの一葉ふくれ
秋月

月よちとぬ秋や波うる年く山
帆瑟

節しふらまをほけりし一葉あふ
伍友

輝一廉の煙ふさくくうあとの海
玉枝

鳥ふあむや狐鳴りうらさあつり
哥仙

西にあつと深よさむあつやきりし
雲杖

山霧の庵もらりたや襪の雨
左月

笑ひえ抱まぬけりう負えお撲
暮白

ころあそちあふくひさあし一穂のふ
一廿方

掃一除きの隙とんをうり白襪
里幽

上廊下う二の掃りぬるむ独りぬ
林鳥

鬼灯やほふれうらちる市あとも
其山

むし小機かしく掃ふやめセク
話友

えたりかゝる我りふかことや大和掃
北溟

地巻堂

七夕やふらふらとてさしづき 意北園 以南

七夕やこころれくほのあはれも 今町 濫水

鶴の海や星もれ一夜のさきも 曹根 竹風

鶴の海や娘もたしなむむの時 羽太山 仙甫

鶴の海やさるせむしく川向 長岡 仙二

ひの海や山も物振ふむる所 興板 知来

人への海先穂ふおくおはる所 李邦 李邦

送る火ふほれくやあふさる所 仙風 仙風

送る火や消さくは海一穂の 羽林崎 兼化

一調子とくく人待さくわく所 且水 且水

山とくく海もよまらる所 羽太山 硯士

鶴の海もさるさゆるさぬさぬ所 全林崎 壺中

さるの子ささきよもいあつく所 高田 竜波

鶴の海やあふ山子なあつて海 沼釜 雪朝

鶴の海もさるおらさるもの所 白根 星泉

鶴の海や秋鶴とのもさる所 伊勢方 兎士

草千鳥や手搦てし松と系を懐れ
白也

草千鳥や懐病武者の弁当吟ん
蘭室

八鶴や四小枝まの妙ねくるまる
石仙

菊白の目を引くんたのむ昔
白根 瓢也

白根の目もかくくくくくくくの月
浮涯

くくくくくくくくくくの月
白根 一鳩

くくくくくくくくくくの月
全 何翠

くくくくくくくくくくの月
似昔

名月や秋の松ものまる中
高岡 左桂

名月や秋の松ものまる中
西白根 魚三

名月や秋の松ものまる中
長岡 時笑

名月や秋の松ものまる中
小瀧谷 峰文

名月や秋の松ものまる中
白根 冬仙

名月や秋の松ものまる中
茨曾根 騷虎

名月や秋の松ものまる中
春宵

名月や秋の松ものまる中
與板 去留

る物もたよりけし 歌や放牛人

東武

無岸

由おのぼもやけけり 放牛人

見附

嵐二

夕和や月此世一 海小深り

巖

為孝

明月の流る水や せきたのり

加え吉

大膳

あまのつらみ せきたのり

中之橋

石仙

お瀬をよみ せきたのり

萱場

逸鳥

くふのうき せきたのり

今町

風色坊

うきものり せきたのり

和御

あまのつらみ せきたのり

羽鶴岡

十雉

あまのつらみ せきたのり

長岡

雲里

あまのつらみ せきたのり

七人

楚由

あまのつらみ せきたのり

今町

三主

あまのつらみ せきたのり

酒井

苍桂

あまのつらみ せきたのり

加吉

龟言

あまのつらみ せきたのり

加吉

里松

あまのつらみ せきたのり

善光寺

東伯

信

冊

松笠のふるふ秋のそら

長曾根 半州

西風の身をほろこくや 後醍醐

全 達州

猪子ふるくおくや 里北秋

地蔵堂 波文

高杉此位出るものもさるのよきふい

長岡 檜里

り秋や新ささきよきぬ 瓢箪

聖之町 賢川

竹枝や空をささきぬ 此柳

如茂 巴柳

り秋やかきほろひし 浮城氏

金沢 珈涼

高杉かや 永島新なる 牛の舌

荊口

らりや下くるさや 穰のそ

凡北

お撲取ちかぬや 秋の唐舟

嵐雪

短歌行

かき秋のひよおてや ね約瓶

里幽

桐の葉をさす風のひやあ

仙風

月此東小極ひさしる子を待く

白也

あまのついのる中飲て仕舞ふ

以南

^ウ 堰達し音清きりさる極の音

浮涯

表を取けハおる家さひよ

虚前

なつれしと音ささゆいさ音備こり

其山

ゆりゆり持たし飯詰てあら

楚雀

は小毒持てさ極小憎あしき

石仙

於母家いなるの神垣

知来

北風より木の指ふよさひむく

北風

新平のほめとそ歌もあかり

蘭室

^ラ 抱ひはる猪さく存ひ羊白かくる

風

幽よこさゆれこ音すの引結

幽

あよあまのりたあのかは流る又

南

嗚く極のこもささるこり

也

持定もけりゆりあをれ風野音

前

中流のたよりしに極もは切

涯

雀
 山
 来
 仙
 室
 筆
 此年一もお読誦あり
 荷ひ梅おきと書きまうとよお合ふ
 かし大なる心海に意取
 その心やいりぬ書はをを
 此代と待てし母およそ

冬と部

大州
 野坡
 乙列
 仙風
 其友
 淳涯
 此一と此夜ぬけて清るこ世れが
 六の此此垣の法目や細くこれ
 るかりく牛一夏の星やり時
 之百身を指く所らお枯り
 此とあそびしう笑ひの枯り
 三條
 雷れあつと秋あをれかれゆれ

風のあつとをわくくぬねかた

北溟

木兔や風やうく東もよる

奥板 菊後

くねそふれさるあつとをわく

亡人 仙潮

東文つとをわくあつとをわく

服之町 危言

境のあつとをわくあつとをわく

虎賁

あつとをわくあつとをわく

奥板 南里

あつとをわくあつとをわく

奥板 芳宇

あつとをわくあつとをわく

尾城 白尻

あつとをわくあつとをわく

奥板 子紫

あつとをわくあつとをわく

新撰 春宵

あつとをわくあつとをわく

新撰 江西坊

あつとをわくあつとをわく

奥板 楚布

あつとをわくあつとをわく

能正殿 如悠心

あつとをわくあつとをわく

白根 止閑

あつとをわくあつとをわく

亡人 文詞

あつとをわくあつとをわく

蘭室

目利一てか海流小崎南より

小崎合 池芳

虹に橋を仕舞一河を架一引れ

真野 和扇

矢おとておやまらわらわらむい

小崎谷 棠笑

あや海東をよみえさるむむい

地蔵堂 其芳

鳥夕やお魚おまよおまおま

三奈 馬天

深きいさきいさきいさきいさき

越禰 柳音

公華小島を一一くお霞散り那

興板 以南

遊るもいも信りてあつしつし

知流

とくさや一節えさるは一孫

東茂 鳥醉

おさるやはあ州山のつちまき

高田 歌園

とくさるやあまぐくえあつし懐手

地蔵堂 一鳳

おさるや八石をの店に一やい

全 日列

とくさるやあまふくしおの指の形

魚津 倚彦

とくさるやいさきの幸さよ大根川

地蔵堂 市燕

とくさるやいさきのほふらものほくちん

沼津 柳儿

とくさるやいさきのいさきのい

加納 兼派

今平くえと和さくうり 東北者

越福井 三四坊

孫くうり 此高のつらぬり 高の意

大田 千尺

獨りもささくふ 羽ありと高れ高

富山 麻父

此角ちのたうも 不さるやうと此高

興板 三枝

月代のぬを 捲くうと高れ高

地巻堂 柳志

西極より 竹さふきいり 音れ高

東氏 旦水

炭火電と 煙火より くるもの高

長岡 百堂

赤子子 危乃門は 高とて 高

長岡 鼻宇

高れぬ中も 柳を物

拍崎 梧井

ぬるら 目をさふり ちりり 高

小橋谷 江雨

思わくとも 木の葉は ぬや 柳

地巻堂 樹芳

ぬるら 小さくうと 高や 柳

白也

ぬるら 高の なる 高

今町 素明

ぬるら 高の 高り 高

本町 松宇

ぬるら 高の やさく 高

尾城 楚雀

ぬるら 高の 高り 高

馬六

わの白れぬ工よ瘦し梅の花

興板 鼓民

張きこけり障子のきり那

全 虚白

新宅母びと川久るるまむか

地巻堂 一登廉

あゆみのまふよれるいそむか

小橋谷 霞蓋

あそびくちまのまふまむか

全 汶東

あししとまふなるあのみるう那

長岡 廬柱

おひとく色もまむかきさう那

興板 梅仙

衣張のつこにまやのつこせ

今町 真雨

あつもの海雲くりけ城こま

尾城 百枳

痛みや梅さ室うく候てむれ

全 丁牧

とせぬねさうけや唐のみら就

暮白

歌えとてそ懐ふ人あゝあふ就

北溟

お火焼れお魚揚るるをむす種

智月

あそこ小多又のる井のきり

尚白

あそむるの遊をこてまらぬ

千那

短歌行

あまのけしきよみかへしきよみかへし

白也

日初しきよみかへしきよみかへし

浮漣

長きつり石焼くよの空電あつて

仙風

依母ら門のさつひのさつひ

里幽

うほくさおしりて霞のまのまの

石仙

夏風の砧あふく語くを

其止

あつたふりまよふと仲人の口拍子

蘭室

さあきさささあさあさあさあ

也

あつたふりまよふと仲人の口拍子

涯

あつたふりまよふと仲人の口拍子

仙

あつたふりまよふと仲人の口拍子

幽

あつたふりまよふと仲人の口拍子

昏

あつたふりまよふと仲人の口拍子

山

あつたふりまよふと仲人の口拍子

室

移向他河上人も縁り 夜

倚天

口の如せぬを語るも鶴も

春宵

お涼とおもふ中へ人ふさうい

且水

罐子お下ふ又の煙さ

北溟

お涼しく身持まはるる

危言

花のみよはさきさき

天

ミラ
もよほさるるはたのほさきさき

霄

あふらさるるさうさう

水

流かともみせ家らふあまもの

湏

さきさきさきさきさき

言

京寺町橋治板

